

News Letter

山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

■第27号■

2008年7月9日

CONTENTS

■山口大学のライフサイエンス！ ～第7回産学官連携推進会議～	1
■山口大学新技術説明会	2
■JST平成20年度シーズ発掘試験	3
■キャンパス・イノベーションセンター(CIC)東京 新技術説明会のお知らせ	3
■「産業財産権制度関係功労者表彰特許庁長官表彰」受賞と YUPASS機能拡充について	4
■平成19年度 共同・受託研究の実績報告	5
■平成20年度 客員教授のご紹介	6
■文部科学省「産学官連携戦略展開事業 (戦略展開プログラム)」採択	7
■新スタッフの紹介	7

発行	産学公連携・イノベーション推進機構
連絡先	〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1
電話	0836-85-9961 FAX 0836-85-9962
e-mail	yuic@yamaguchi-u.ac.jp
URL	http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/

山口大学のライフサイエンス！～第7回産学官連携推進会議～

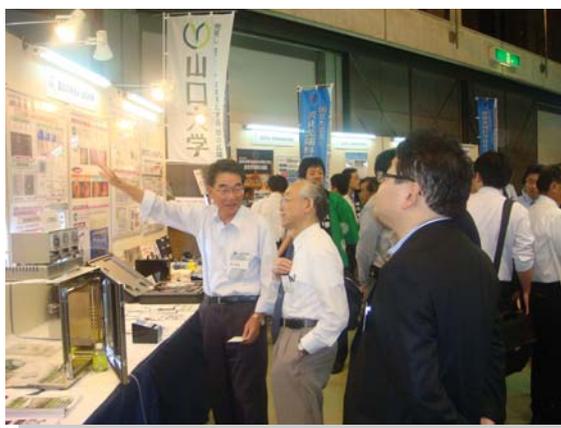
6月14日、15日の両日、国立京都国際会館(京都市)を会場に産学官連携を担う第一線のリーダーや実務経験者が一堂に会して行われる全国大会「第7回産学官連携推進会議」(主催:内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会、日本学術会議)が開催されました。

本学からは三木副学長をはじめ、産学公連携・イノベーション推進機構のスタッフ、産学連携課職員が会議に出席、各々分科会に参加し、今後の産学官連携について全国の動きや今後の方向性などについて情報収集を行いました。

また、各大学、研究機関が研究成果、活動内容を発表する展示コーナーには、今後の発展が期待されている「ライフサイエンス」をキーワードに、山口大学と財団法人やまぐち産業振興財団が協働して取り組んでいる知的クラスター創成事業「やまぐち・うべ・メディカル・イノベーション・クラスター」の研究成果を展示しました。白色LEDを用いて、既に試作されている先端的な診断・検査機器の中から、大腸内視鏡、遺伝子多型測定装置、人工気象箱等を展示、100人を越える多くの来場者が担当者と質疑応答を繰り広げていました。

さらに、例年好評を博している、知的財産部門が中心となって開発・監修した「ラボノート」の配布を、300人弱の来場者に行いました。

全国の産学官連携を担う関係者に、山口大学の取り組んでいる「ライフサイエンス」を紹介できた、稔りの有る2日間でした。



ブースで来訪者への試作機等の説明



ブースを訪れている来場者

山口大学新技術説明会

山口大学が首都圏で、実用化に向けた新技術の説明会を開催、 医療・環境・材料・画像処理分野の最新技術を企業に積極アピール

山口大学は、新技術を企業に積極的に売り込むことを目的に、平成19年3月に続き、科学技術振興機構(JST)との共催、山口県などの後援を得て、本年6月13日(金)に、東京・市ヶ谷のJSTホールで第2回山口大学新技術説明会を開催した。

この新技術説明会は、大学の未公開特許を中心にした技術シーズを研究者自身が企業関係者を対象に、実用化を展望した技術説明を行い、共同研究及び技術移転の実施企業を募るもので、今回は、「医療」「環境」「材料」「画像処理」の分野から10テーマの発表を行った。

昨年の説明会でも10テーマ発表して共同研究等7件成立するなど大きな成果を得たことから、本説明会も機構とTLOのコーディネータ(6名)が一体(FSグループ)となって、半年前から準備を進めた。まず特許出願している技術から実用性が高く夢のあるシーズを選定し、発表内容については発表者とコーディネータが事前に何回も打ち合わせて、企業の視点に立った分かり易い内容およびストーリーに仕上げた。

説明した新技術は、次の10件である。

医療分野(3件)

- ・「循環器疾病をモニタリングできる在宅ヘルスケア用の心肺情報計測解析システム」
理工学研究科 江鐘偉教授
- ・「自己骨髄細胞を用いた肝臓再生技術」
医学系研究科 坂井田功教授
- ・「MEMS技術による単一細胞の伸展・観察用デバイス」
医学系研究科 佐藤克也助教

環境分野(3件)

- ・「水中音響を用いた貝類の食害生物の感知システム」
理工学研究科 関根雅彦教授
- ・「耐熱性エタノール生産細菌を用いたバイオエタノール生産技術」
医学系研究科 山田守教授
- ・「改質天然繊維を強化材とする新しい複合材料の開発」
理工学研究科 合田公一教授

材料分野(3件)

- ・「電気化学法によるマンガン酸化物のナノ構造形成と電力貯蔵材料への応用」
理工学研究科 中山雅晴准教授
- ・「高性能フレキシブルディスプレイを目指した多結晶Siの低温大粒径化技術」
工学部 河本直哉技術専門職員
- ・「複数機能的官能基の相乗効果による高イオン伝導性のポリマー電解質」
医学系研究科 堤宏守教授

画像処理分野(1件)

- ・「進化的アルゴリズムを用いた画像処理による外観品質検査の自動化技術」
理工学研究科 河村 圭准教授

JSTが発表シーズの概要等をHPやDMで事前広報したり、コーディネータが関連企業にプレマーケティングしたこともあって企業から高い関心が寄せられ、当日は大手企業などから約200名(延べ650名)の来場があった。ほぼ満席となる発表テーマもみられ、出席者からは興味深く、理解しやすかったとの声も上がっていた。説明会後に行われる個別相談会では、共同研究や情報交換を視野に約50件の技術相談があった。テーマによっては行列のできたものがあり、反響の大きさがわかる。今後は、相談のあった企業を中心にマッチング活動を広範囲に推進して、共同研究や技術移転へ繋げていくことにしている。

また、隣接の展示会場では山口大学の産学連携活動をPRするためイノベーション推進機構、知財本部、TLO、知的クラスター、技術経営研究科などのパネル展示、さらに山口県の企業誘致パンフレット、宇部市の企業誘致体制および物産についての紹介を行ったので、来場者に山口大学と山口県や宇部市をより身近に感じてもらえる機会にもなった。

今回のイベントはマスコミなどの関心も高く、日経産業新聞、日刊工業新聞、宇部日報にも取り上げられた。

JST平成20年度シーズ発掘試験

山口大学の採択件数が前年度より1.5倍に増加。

例年の工学部と医学部のほか、農学部と理学部からも採択

JST平成20年度シーズ発掘試験(研究費200万円/件、研究期間1年)に山口大学から77件応募し、先日15件の採択が発表された(工学部7件、医学部4件、農学部2件、理学部2件)。これまでの17年度5件(応募29件)、18年度10件(応募53件)、19年度10件(応募68件)にくらべて大幅な増加になった。採択率20%も全国水準(応募6966件、採択1387件、採択率20%)に達し、今年度はじめて、農学部と理学部から採択され、今後の弾みになる嬉しい結果であった。

シーズ発掘試験は、研究者とコーディネータ(CD)が連名で応募するもので、CDには実用化の観点から助言や情報提供などのサポートが期待されている。そこで、本年度は、機構のCD(3名)とTLOのCD(3名)がフロントサービスグループとして一体となって、シーズ発掘試験の応募に取組んだ。具体的には、各CDの担当教員を決め、各教員(180名)へ公募の事前案内や、教員との面談および申請書案に対するコメントなど、きめ細かな支援活動を積極的に進めた。これらが、かなり功を奏して、採択増加に繋がった。また、これらの活動を通じて、研究の方向性と内容の理解が深まり、教員との信頼関係が一層強くなったのは大きな収穫であった。シーズ発掘試験については、次年度はさらに応募件数と採択数を増加させるよう支援するとともに、採択された研究テーマについては大型の外部資金や企業との共同研究に繋げていくようフォローしていくことにしている。

キャンパス・イノベーションセンター(CIC)東京 新技術説明会のお知らせ

日時:平成20年7月25日(金) 12:30~17:50

会場:キャンパス・イノベーションセンター東京(東京・港区・田町)

参加費:無料

申し込み、説明会の詳細、技術の概要については、こちらをご覧ください

→ <http://jstshingijp/cic-tokyo/>

山口大学からは、下記2件の発表を行います。

(1)超音波レーダと電灯線通信を用いた見守り介護支援システム

山口大学大学院理工学研究科 田中幹也 教授

(2)新型低温多元対向スパッタ装置のナノテク電子素子分野への展開

山口大学大学院理工学研究科 諸橋信一 教授



「産業財産権制度関係功労者表彰特許庁長官表彰」受賞とYUPASS機能拡充について

平成20年度、知財功労賞を受賞された、本学技術経営研究科の木村友久教授に、受賞コメントをいただきましたので紹介させていただきます。YUPASSの機能拡充についての情報もいただきましたので、今後の研究にご活用下さい。

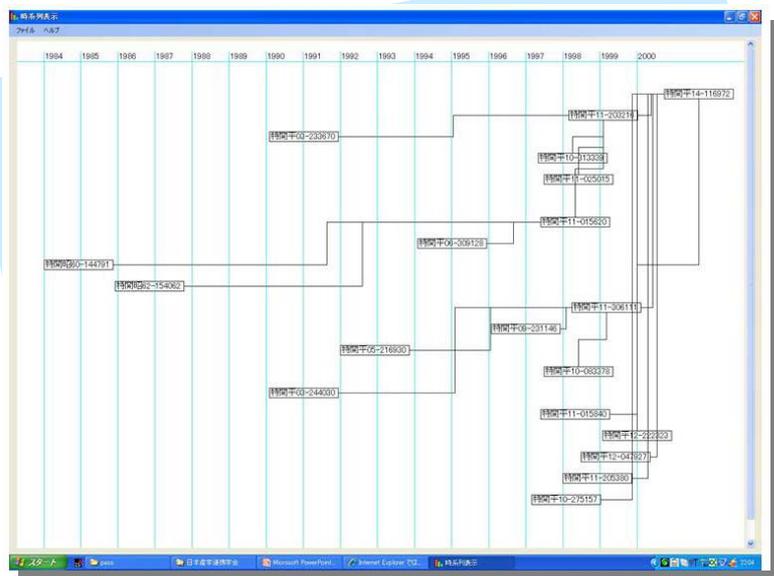


表彰式(山本光学株式会社高木和憲氏撮影)

このたび、平成20年度の知財功労賞(産業財産権制度関係特許庁長官表彰者)をいただき、4月18日発明の日に関催された表彰式(グランドプリンスホテル赤坂)に出席してきました。主な、受賞理由は中学、高校、高専、そして山口大学に至る職歴で、一貫して進めてきた知財教育普及と発達段階に応じた知財教育手法研究への貢献です。研究を始めた当時は知財教育の概念も薄く、授業改善を切り口に教育方法の提案を行っていました。現在では、初等中等教育段階では学習者の創造性涵養の観点、そして大学等の高等教育機関では併せて研究開発を促す観点から知財教育を実施することが定番になっています。例えば、大学では、特許情報の理解や整理を通して専門科目の理解や発想法を改善する知財教育が考えられます。ものづくりや創造性発揮は、ある意味では人間の本質ですから、ここにフォーカスをあわせた知財教育方法の実践は自然の摂理に合致したものです。受賞を機会に、更に研究開発や社会貢献ができるよう努力する所存です。なお、教育手法や教材、あるいは開発した特許検索システムを含む報告は、下記の木村研究室ホームページに掲載しています。

★木村研究室HP <http://t-kimura03.cc.yamaguchi-u.ac.jp/>

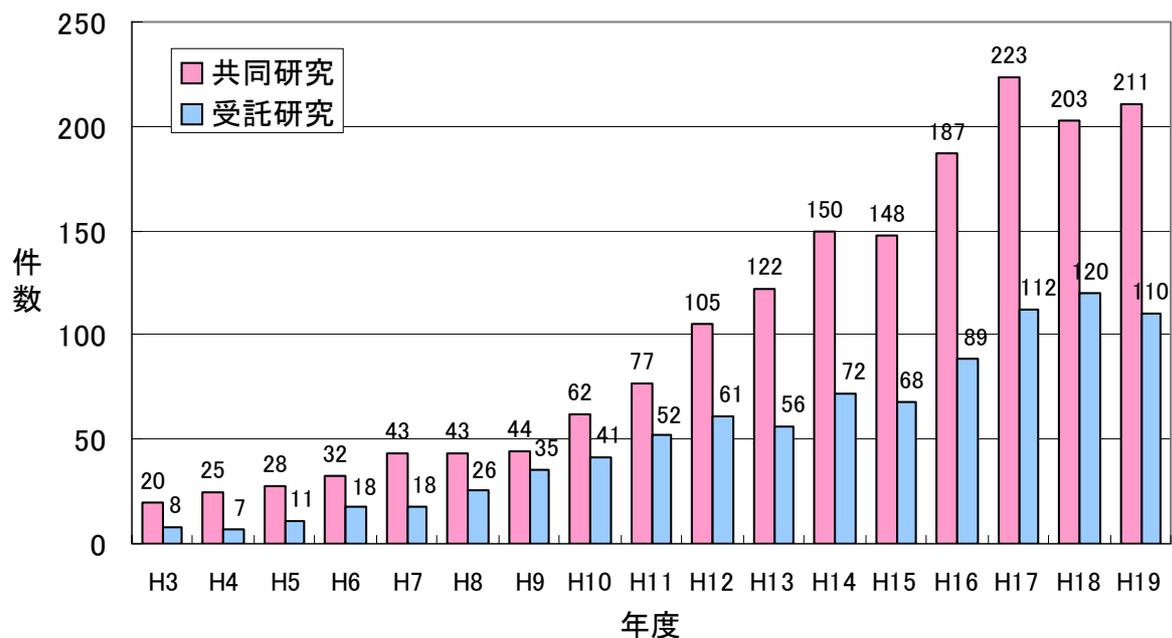
また、YUPASS(山口大学特許検索システム)システムを5月12日から拡充しています。今回は、特許検索の初心者が利用しやすいように「検索結果のグラフ化」「重み付け検索」「特許情報の引用・被引用関係の図示」の三機能を付加しました。3つめの機能は、下記にあるように特定の特許公報番号から重要特許や開発の流れを簡単に把握するものです。これらについては近日中に利用方法説明会を開催する予定です。



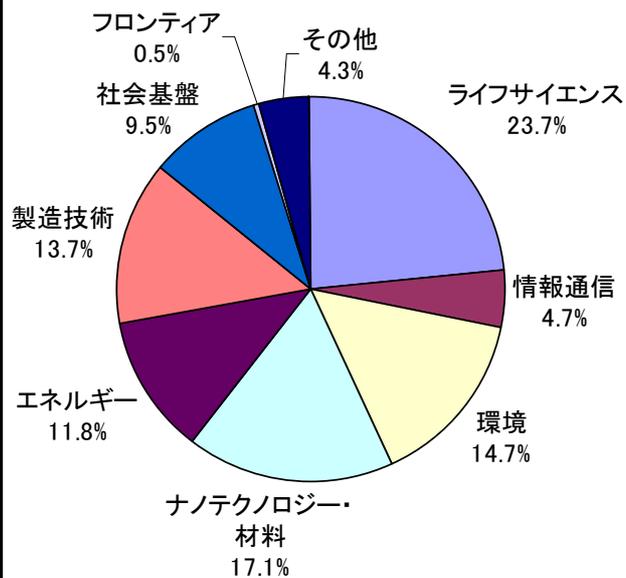
平成19年度 共同・受託研究の実績報告

平成19年度の共同研究と受託研究の実績をお知らせします。
 皆様のご尽力、ご協力のおかげで、本年度は共同研究211件、受託研究は110件になりました。
 平成20年度もみなさまのご協力のほどよろしくお願い致します。

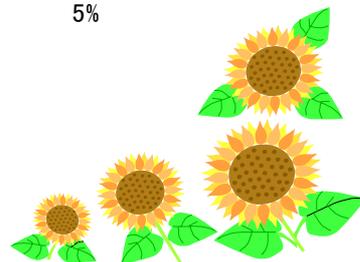
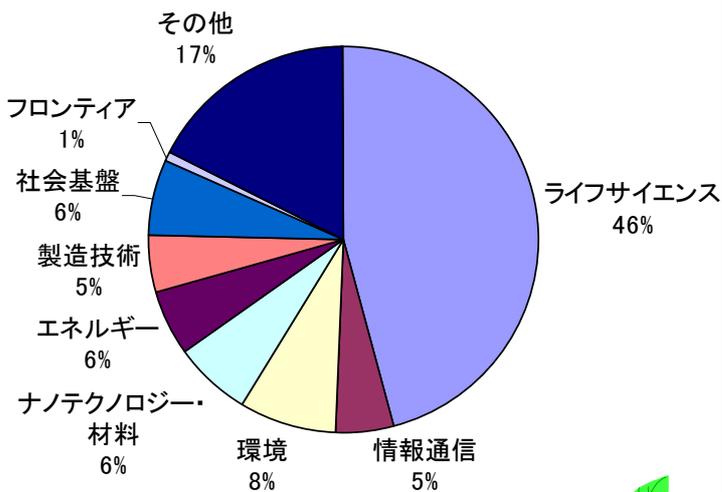
共同研究・受託研究件数推移(H19年度)



共同研究分野別割合(H19年度)



受託研究分野別割合(H19年度)



平成20年度 客員教授のご紹介

当機構では、今年度も山口大学と民間企業等との共同研究の推進等を目的として民間機関等から客員教授をお迎えし、「特別講演会」や「セミナー」等を開催致します。

なお、講演会のご案内は機構発行のメールマガジンやホームページでも随時お知らせします。

氏名	現職	専門分野
伊東 健治	三菱電機株式会社 モバイルターミナル製作所 ハードウェア技術部長	マイクロ波工学 無線工学
原田 博	ライト工業株式会社 本社顧問	斜面防災
来山 尚義	復建調査設計株式会社	地盤工学
松本 理	(前)長門農林事務所長	農業生産学
宇多川 隆	味の素株式会社 発酵技術研究所顧問	応用微生物学
千々岩 浩巳	第一復建株式会社 構造部長	網構造物の合理的設計法 及び維持管理手法
正木 信男	株式会社ブリジストン 車両研究本部	環境融合型新概念の移動体 (Mobility)用支持・駆動装置 に関する基礎研究
杉原 弘造	(独)日本原子力研究開発機構 地層処分研究開発部門 東濃地科学研究ユニット長	岩盤工学
植田 清隆	電力中央研究所 名誉研究顧問	電力系統の計画と運用 超電導電力応用
淵野 修一郎	(独)産業技術総合研究所 主任研究員	低温工学 超電導電力応用
羽根 拓也	株式会社アクティブラーニング 代表取締役社長	ベンチャー・ビジネス
松田 臣平	(有)マツダリサーチコーポレーション	ベンチャー・ビジネス
横林 寛昉	株式会社YBI 社長	ベンチャー・ビジネス
辻本 一義	辻本法律特許事務所 弁理士	知的財産権
辻本 希世士	辻本法律特許事務所 弁護士、弁理士	知的財産権

(H20.4.1付採用者)

文部科学省「産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)」採択

本事業は大学等の知的財産戦略などが持続的に展開されるように、大学の主体的かつ特色ある産学連携プログラムを支援するためのものです。採択された山口大学の計画(平成20年度から5年間)では以下の2つに力点を置いています。

1. ライフサイエンス分野のイノベーション推進

(1) 医療関連分野、環境分野、アグリバイオなどの分野の支援人材を登用してライフサイエンス分野のイノベーション創出を戦略的に推進します。

(2) ライフサイエンス分野で重要となる国際的な産学連携と知財戦略、およびベンチャー創業支援機能の強化を図ります。

2. 地域発イノベーション創出の戦略的推進

(1) 地域のコーディネータと大学のコーディネータとの協働体制を強め、地域発イノベーション創出を推進します。

(2) 中国地域や北九州地域での広域連携も強化して、地域発イノベーション創出を加速します。

本事業を実施する中心組織である産学公連携・イノベーション推進機構は4月1日に組織改革を行い、ますます充実した支援のできる組織として生まれ変わっています。今後の地域発イノベーションに向けて御協力、御支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

【参考HP】 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/06/08061913.htm

新スタッフの紹介



氏名: 藤本 昌平
(ふじもと しょうへい)
専門分野: 食品、バイオ

昨年11月より山口大学産学公連携・イノベーション機構知的財産部門(当時知的財産本部)に勤務しております。以前はNEDOフェローとして山口TLOに勤務しておりましたので、山口大学内の勤務はちょうど3年が経ちます。TLO時代には主に先生の技術を企業へ紹介する活動を行っていましたが、知的財産部門では主に特許出願の相談や明細書作成及び出願手続きなどを行っております。私が学生として本学農学部で在学していたころには、知的財産なんて全く意識することがありませんでしたので、この10年の間にずいぶん知的財産に対する意識が変わってきたと驚いています。さらに、知的財産に全く無関心で、人と話をするのが不得意であった自分が今の仕事をしていることはもっと驚きです。しかし、この仕事もやってみると非常にやりがいを感じています。

「iPS細胞」のような世界で注目される画期的な技術が山口大学にもたくさんあるはず。山口大学の技術が山口、日本そして世界で活用されるように努力していきますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



氏名: 松崎 徳雄
(まつざき とくお)
専門分野: 石油化学ですが、何でも挑戦

本年4月より特許流通アドバイザーとしてTLOにきました。産学公連携・イノベーション推進機構産学公連携支援部門コーディネーターも兼ねています。よろしくお願いいたします。

主要な職務は、山口大学の技術・特許が産業界、企業で使われるよう橋渡しすることです。大学は教育機関としてだけでなく研究機関としての役割を担っていますが、近年、大学には社会に生かせる技術が開発されることが期待されています。比較的自由な発想から生まれる大学の技術シーズには社会の進歩、活性化に寄与するものも少なくないと考えられます。山口大学の特許を読みながら、多様な分野の先生がおられ、それぞれユニークな技術を蓄積されながら研究が推進されていることに感心しています。そのような技術は企業、社会で評価されたり、使用されるべきと考えています。与えられた職務にはそんな社会的使命も感じていますが、気負わずに遂行していきたいと考えています。

年齢はそこそこですが、オフには水泳や登山を楽しみにしています。機会があれば声を掛けて下さいますよう。公私ともども宜しくお願いします。

山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

Innovation Center, Yamaguchi University

連絡先: 〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1

発行: 山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構 TEL: 0836-85-9961 FAX: 0836-85-9962

E-mail: yuic@yamaguchi-u.ac.jp ホームページ: <http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/>